

第2回上北地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 特色ある教育活動の方向性について

【各委員からの意見】

①引き継ぐべき特色ある教育活動

○ 十和田西高校観光科で取り組んでいる十和田奥入瀬文化観光認定ガイド養成講座や、奥入瀬エコロードツアー等でのボランティアガイド、救命講習などの取組については、統合校の普通科に観光コース等を設置することにより引き継げるものとする。

また、十和田市秋祭りにおいて全校生徒が流し踊りに参加していることから、地域活性化のため統合校に引き継いでもらいたい。

○ 六戸高校では、教育課程上にボランティア活動の評価を位置付け、「メイプルボランティア」という名称で学校設定科目となっているため、統合校の教育活動に取り入れてもらいたい。

また、総合的な探究の時間において、「六戸高校さつき沼ビオトープ化プロジェクト」として関係機関と協働しながらビオトープ化を目指し活動している。十和田市の一本木沢、六戸町の館野公園さつき沼、三沢市の仏沼の3つの地域を結ぶとその中心に統合校があり、理想的な教育環境が作れるため、この探究型学習のノウハウを引き継いでもらいたい。

○ 三本木農業高校では、地域の伝統工芸品づくり（きみがらスリッパ等）等地域と連携した取組や、農場見学等の受け入れ、アンテナショップの開催などに取り組んでおり、普通科においても可能な部分で連携しながら統合校に引き継いでいければ良い。

○ 現在の三本木農業高校の教育活動の全てを引き継ぐべきであり、それに加え十和田西高校、六戸高校の提案を取り入れて太い幹とし、それが新しい学校の特色になってほしい。

②新たな特色ある教育活動

○ 地域の祭りへの参加などボランティア活動について、上十三全域を視野に入れて活動してもらいたい。

○ 少子高齢化問題について、高校生のおきから解決策を考えてもらいたい。

○ これから農業に従事する者は100%大学へ進学させることを目指し、統合校では大学進学とスポーツを大きな目玉にできれば良い。

○ 農業後継者や農業関連産業従事者を育てるためには、青森県営農大学校や農学部のある大学等と連携しながら、積極的な人的交流等これまで以上のことに取り組んでいく必要がある。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

■ 3校の特色ある教育活動を引き継ぎつつ充実した教育活動を展開できるよう、開設準備委員会における意見を総合的に勘案しながら、来年度三本木農業高校に設置する開設準備室で具体的な検討を進めてもらいたい。

2 普通科と農業科の連携の方向性について

【各委員からの意見】

- 田植えや稲刈り等の活動について可能な限り全校行事として実施することが考えられる。
農業科における生産や加工に関する学習、普通科における流通やマーケティング、販売促進等に関する学習を相互に取り入れることにより、農業の6次産業化の視点に立った教育活動が可能となるほか、農業科及び普通科に商業に関する科目を取り入れることにより、商業的な視点を活かした研究活動等が可能となる。また、農業クラブの研究活動と普通科の総合的な探究の時間における取組を連携させることが考えられる。
農業科の利点である職業に直結した資格取得や、普通科の利点である大学等への進学に向けた講習などに全校で取り組むことが考えられる。
- 「六戸高校さつき沼ビオトープ化プロジェクト」のように、三本木農業高校にある広大な農地など学習環境を活用した探究型学習の展開が考えられる。また、田植えや稲刈り等の行事への参加が考えられる。
- 農業をベースとした連携とすれば、全校田植えの開催や、学習成果発表の場としてプロジェクト発表会の開催が考えられる。また、普通科の中に「観光農業」や農作業に協力する「援農」など農業科の学習を入れ込むことも大事であり、生徒の進路選択の幅を持たせるため、普通科と農業科の垣根のない進学指導を進めてもらいたい。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 開設準備委員会における意見を踏まえ、統合校の普通科と農業科の連携促進が図られるよう開設準備室において検討を進めてもらいたい。

3 部活動の方向性について

【各委員からの意見】

- 三本木農業高校の部活動はそのまま引き継いでもらえば良いが、六戸高校のゴルフ部や十和田西高校の空手道部など、三本木農業高校にはない部活動についても、物理的・予算的に可能であれば引き継いでもらいたい。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 部活動については生徒のニーズに応じて対応することとし、開設準備室で具体的な検討を進めてもらいたい。

4 統合対象校間の連携の方向性について

【各委員からの意見】

- 観光やボランティアに関する学びを普通科に引き継ぐこととしていることから、普通科を中心に、教育課程を組んでいくことが重要だと思うので、できれば今年度中から検討を進めた方がよい。
- 統合対象校の在校生が望む部活動を継続させるため、3校が連携して活動できればよい。
- それぞれの在校生がいるうちは、田植えや部活動、生徒の研究発表会など様々な場面で可能なところから連携できればよい。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 教育課程の検討や部活動、学校行事など、生徒のことを考えながら3校の連携を進めてもらいたい。

5 校名案の方向性について

【各委員からの意見】

- 学校関係者等に意見を伺ったが、具体的な案はなかった。したがって、現在の「三本木農業高校」で良いという空気があることをお伝えしておく。
- 120年以上の歴史を考えると「三本木農業高校」が良いのではないかと。三本木農業高校は青森県農学校から始まったことから、「農」の言葉は外すわけにはいかないだろう。普通科が新設されるが、これからの時代に農業は大事だろう。
- 新しい校名としていただきたい。十和田市を含めたこの地域は新渡戸家による開拓ということもあるので、「三本木アグリフロンティア高校」とするのはどうか。3校の校歌に「開拓」を意味する言葉が含まれているので、「フロンティア」は入れてほしい。
- 統合校の校名は新しいものと考えていただきたい。三本木農業高校の歴史も大切だが、校名を引き継がれると吸収されるイメージとなる。3校統合による校名を新しいものにすることで、新しい時代に合った教育を考えるチャンスになる。ただし、三本木農業高校の歴史を考えると、三本木という名称が残ることは問題ない。開拓精神や稲生川があることが3校に共通していることから、関係する文字として、開拓の「拓」、稲生川の「生」を入れ、「三本木^{たくせい}拓生高校」はどうか。
- 「十和田」では範囲が狭いので、三本木原台地に根付いた学校ということで「三本木」という名称は残っても良いのではないかと。また、農業の拠点校の意味合いもあるので、「農」の言葉はあっても良い。これから教育課程や理念を生かしていくことを考えると、これに何か付け加えることが考えられるのではないかと。三本木農業高校のOBからすれば、そのままで良いという意見になると思うが、そのことについては慎重になる必要がある。「三本木」と「農」が残れば、通称が「三農」となり、これまでの120年の歴史を踏まえつつ全国的にも知名度が高い「三農」であることはフォローできるのではないかと。
- 「三本木農業高校」という名前を残したいが、吸収されることには残念な思いもあるため、これらの思いをどう上手にミックスしていければ良いのかと考えると、「三農」の下に何か付け加えることはできないか。ただ、校名を変更すると予算がかかることも懸念さ

れるところであり、絞りきれないというのが正直な気持ちである。

- 「三本木農業高校」が良いと思う。三本木という名称は三本木原という意味だったが、イメージを変えて、十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校をそれぞれ一本の木と見なし、それらが集まって三本木ということで発想を変えればどうか。また、子どもたちが新しい校名を望むのか。現在の生徒が入学した時に、保護者は120年の歴史のある三本木農業高校だから進学させているのであり、生徒たちもその誇りを持っている。これから入学してくる生徒には歴史、伝統、貫禄のある「三本木農業高校」がふさわしいと考える。
- 既存の校名（三本木農業高校）を引き継いだ方がメリットがあると思う。しかし、引き継ぐにしても、高校が変わったことを示すため、教育目標、校訓、教育課程を含め、ダイナミックに変えていかないといけない。
- 新しい校名を考えていたが、思いつかず結論が出なかった。しかし、ただ単に現在の校名を使うと異論が出るかもしれない。そのため、結論が出なかったというのが私の意見である。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 第3回委員会では具体的な校名案候補を各委員から提示してもらいながら協議する。